

# 08年タコ

単位：数量，1000トン、価格，円/kg

年	数 量						価 格				輸 入 国							
	漁獲	産地	輸 入	東 京	支 店	在 庫	産 地	輸 入	東 京	支 店	モロ	モー	リセ	ネ タ	ス ペ	ベ ト	中 国	マシ
19	53	5.6	46.8	10.4	798	18.7	427	734	919	1391	10.3	14.0	1.5	1.8	1.8	4.8	7.2	3.5
20	55	5.9	44.7	8.8	692	18.5	415	763	975	1298	10.9	12.6	1.7	1.2	2.7	5.5	6.7	1.1
%	104	105	96	84	87	99	97	104	106	93	105	90	114	66	145	114	93	31

## 輸 入 の 動 向

20年の輸入量は、4.5万トンでわずかながらではあるが本年も引続き減少した。これは主力のモーリタニアや中国等からの減少を反映したものである。

本年の西アフリカでの漁は、モロッコを主体に長期休漁と漁獲量や漁場の規制、サイズ規制の中、依然生産自体の大きな伸びはみられておらず、資源も基本的には回復していない。しかし部分的には久しぶりに好漁がみられるなど、多少明るい兆しもみえた。

本年の西アフリカ夏ダコトロール漁は漁獲枠が16,000トンで前年の10,000トンと大幅に上回った。漁期は5，6月が休漁となり7月1日解禁でほぼ昨年と同様であった。北部、南部がやや遅い解禁であった。ダクラの陸凍は3，4，5番主体で、当初好漁もみられたが、8，9月には低調になり10月から休漁（2－3ヶ月）になった。

モロッコの冬ダコ漁は（昨年10～12月）の休漁で本年は年初から始まり、TAC枠の増枠（28,000トン）もあり期待が掛かったが、依然高値決着となり、6，7番サイズの漁獲であった。

またモーリタニアの夏タコ漁は壺が4，5月休漁の6月15日解禁、トロールと、氷蔵船は6月1日解禁となった。その後の漁を挟んで、トロール、氷蔵船、スペイン船は9月から休漁となり、12月15日まで伸びた。壺は12月1日出漁となった。沖漁は当初好漁で、6月解禁後は6番主体に漁獲され、国内市況を冷やす期待が膨らんだ。

市況は、休漁措置、漁獲枠の設定（TACの設定）、サイズ規制等も続いているが、枠増加も部分的にみられたが、上半期の現地価格は依然高値横ばい推移で、後半は金融危機の中でEUの買いもストップしたが、輸入価格、消費地価格とも前年をやや上回った。

大型サイズを始めとしてEU諸国との競合も多く、特に西アフリカ産の大型やメキシコ産大型については目立っている。しかし上述のように下半期後半には、現地在庫も増加したこともあり、対日本向けオファーも増えた。

輸入国は、昨年が続いてモーリタニアが28%で前年(30%)をやや下回り、モロッコも24%（前年22%）であった。中国が15%前年（15%）並み、続いて、ベトナム、スペイン、セネガル、タイとなっており、メキシコは少なかった。

輸入価格は、763円と買付価格の高値を受けて前年（734円）を上回った。

また本年も、マダコ、ミズダコ、ヤナギタコ等、国内外のタコ類の供給があり、国内需要に対応し、多様化しているが、末端ではマダコと水、ヤナギを扱う業者と2極化している。

## 在 庫 量

本年の平均在庫量は、1.9万トンと前年（1.9万トン）並みであった。

越年在庫は1.8万トンで前年（1.9万トン）を若干下回ったが、マーケットから見るとやや重く、前年に続いて2万トン割れの越年在庫となった。

## 消費地入荷量と価格

20年の東京の入荷量は、0.9万トンで引続き前年（1万トン）を若干下回っており、引続き消費地

での取扱の減少が続いている。

本年は高値の影響から殆ど特売もなくなり、マーケットの縮小は続いている。

家庭消費支出は、単価高の影響もあって数量、金額ともに引き続き減少しており、マーケット減少を裏付けている。

価格は、975円で前年（919円）を上回り、内外の価格の上昇を反映した格好となった。